

小 学 校

令和7年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究仮説	3
IV	研究主題に迫るための具体的な手だて	3
V	検証授業	6
VI	研究の成果と課題	15

## 研究主題

社会的事象の見方・考え方を働かせ、  
主体的に問いを追究する児童の育成  
～問題解決の見通しをもち、学習の自己調整を図りながら、  
協働して学びを深める学習を通して～

### I 研究主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中央教育審議会 令和3年1月26日)では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である」と示されている。特に「個別最適な学び」においては、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な設定が求められている。

また、小学校学習指導要領(以下、「学習指導要領」という。)においても、三つの柱に沿った資質・能力を育むため、児童が課題を追究・解決する活動の一層の充実」が求められている。このことから、問題解決的な学習過程の充実を図る際には、主体的・対話的で深い学びを実現するよう、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などの工夫が重要であると考えられる。

一方、「令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果の概要(社会)」(国立教育政策研究所)では、『問題解決の見通しをもとうとすること』に課題があると考えられる。」と指摘されている。また「令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)」(文部科学省)では、「児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。」という設問に対して、肯定的な教師の回答(89.4%)と児童の回答(80.3%)の間には、9.1ポイントの乖離があり、他の質問と比べても意識の差が顕著である。さらに、本教育研究員所属校の児童の実態を分析した結果、「教師が児童に解決の見通しをもたせるための学習計画を立てる学習活動が不十分であること」や、「学習を見通し振り返る場面において、児童の自己調整を促す指導の工夫が不足していること」といった課題が見られた。

これらを踏まえ、社会科の授業における問題解決的な学習過程を通して、一人一人の児童が解決の見通しをもち、追究の結果を振り返ることや自己の学習を調整することを繰り返すことで、社会的事象における見方・考え方を働かせながら、主体的に問いを追究する児童が育つのではないかと考えた。そこで本研究では、「児童が自ら問いを見だし問題解決の見通しをもつこと」及び「児童が自己の学習を調整し、学びを深めること」に焦点を当てて進めることとした。

以上により、研究主題を「社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する児童の育成」とし、副題を「問題解決の見通しをもち、学習の自己調整を図りながら、協働して学びを深める学習を通して」と設定した。

## Ⅱ 研究構想図

【「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」】（中央教育審議会 令和3年1月26日）

- ・『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていく必要がある。
- ・子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

### 【小学校学習指導要領解説 社会編】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

教育研究員共通研究テーマ「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」

#### 課題

【令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査 結果の概要（社会）（国立教育政策研究所）】  
資料から問いを見いだすことは相当数の児童ができている。一方で、学習計画を立てたりして問題解決の見通しをもとうとすることに課題があると考えられる。

【令和7年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）】  
「児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」という質問に対して、教師より児童の肯定的な回答割合が9.1ポイント低く、この意識の差に課題があると考えられる。

【各所属校における児童の実態から見えてきた課題】

- ・教師が児童に解決の見通しをもたせるための学習計画を立てる学習活動が十分に工夫できていない。
- ・学習を見通す場面、振り返る場面で、児童の自己調整を促す指導の工夫が不足している。

### 【研究主題】

「社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する児童の育成」  
～問題解決の見通しをもち、学習の自己調整を図りながら、協働して学びを深める学習を通して～

#### 仮説

教師が、「児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫」と、「児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫」を講じる。これにより一人一人の児童が問題解決の見通しをもち、追究の結果を振り返ることや自己の学習を調整することを繰り返すことで、社会的事象における見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追求する児童が育つであろう。

#### 主題に迫るための手だて

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

- ① 問題意識を醸成し、追究意欲を高めるための社会的事象との出会いの場面の工夫
- ② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

- ① 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深める教師の働きかけの工夫
- ② 学習過程の各段階において自己の学習を調整する場面の工夫

#### 目指す児童像

社会的事象の見方・考え方を働かせながら、自ら問いを見だし、問題解決の見通しをもちながら追究していく過程において、追究の結果を振り返ることや自己の学習を調整することを繰り返すことを通して、主体的に問いを追求する児童

### Ⅲ 研究仮説

「児童が自ら問いを見いだし、解決の見通しをもつための工夫」と「児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫」を講じる。これにより一人一人の児童が問題解決の見通しをもち、追究の結果を振り返ることや自己の学習を調整することを繰り返すことで、社会的事象における見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追求する児童が育つであろう。

### Ⅳ 研究主題に迫るための具体的な手だて

#### <手だて1> 児童が自ら問いを見いだし、解決の見通しをもつための工夫

##### ① 問題意識を醸成し、追究意欲を高めるための社会的事象との出会いの場面の工夫

社会的事象との出会いの場面において、児童の疑問や問いを引き出し、「調べたい」「解決したい」という追究意欲を高められるよう資料を精選し、提示の仕方や発問等を工夫する。前単元や前学年の既習内容、及び社会的事象の見方・考え方を踏まえた資料提示の仕方や発問等を工夫することで、強い問題意識に基づく学習問題の設定ができるようにする。

##### ② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

児童が、自ら社会的事象の見方・考え方を働かせ、解決の見通しをもちながら追究できるよう学習計画づくりを工夫する。

学習計画は、単なるキーワードの羅列に留めず、解決に向けた話し合いを通して、「問いの形」で具体化する。学習問題に対する予想に基づき、追究の視点を明確にした学習計画を作成することで、課題追究から解決に至る各段階において、児童が常に見通しをもって学習を進められるようにする。

特に、「問いの形」で表現していく際には、意図的な資料提示や問い返しを行い、社会的事象の見方・考え方を含み、学習問題の解決のために必要な問いとなるようにする。

加えて、児童の発達段階や学習内容等に応じ、必要な資料、学習方法、追究する問いの順序などを計画に位置付け、児童自身が選択できる場面を設定する。その際、以下の3点に留意する。

- ・目的意識のある選択 : 単なる自由選択に陥らないよう、「学習問題の解決に最も効果的な手段は何か」という問題解決の方向性に基づいた判断を促す。
- ・選択を支える基礎技能 : 児童が根拠をもって自己の課題解決に最適な方法を選べるよう、資料活用やまとめ方などについて、事前に十分な指導を行っておく。
- ・自己調整の場の設定 : 学習計画に基づき「学び方」等を振り返る機会を設け、自らの学びを調整する力を育成する。

これらを踏まえ、学習指導要領の各学年の目標の達成を目指し、各学年における選択の具体例（資料、学習方法、問いの順序選択）を以下のとおり整理した。

表1：各学年で選択し得る資料・学習方法、問いの順序選択（例）

学年	資料	学習方法等	問いの順序選択
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書</li> <li>副読本</li> <li>地図帳や地域の平面地図や立体地図</li> <li>写真</li> <li>実物などの具体的資料</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習形態（個人、ペア、グループ）</li> <li>まとめ方 必要な情報を集め、読み取り、白地図や年表などにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前単元の見方・考え方を活用し、学級全体で話し合いながら問いの順序を選択する場面を設けるなど、教師の支援のもとで段階的に導入する。（単元例：消防、警察）</li> </ul>
第四学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書</li> <li>副読本</li> <li>地図帳や地域の平面地図や立体地図</li> <li>写真</li> <li>実物などの具体的資料</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習形態（個人、ペア、グループ）</li> <li>まとめ方 学習問題の追究・解決に必要な情報を集め、読み取り、白地図や年表などにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の社会的事象の見方・考え方を働かせ、追究段階における問いの一部を児童が個別に順序選択して追究する場面を導入する。（単元例：水、ごみ）</li> </ul>
第五学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書</li> <li>地図帳や地球儀</li> <li>統計などの基礎的な資料</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習形態（個人、ペア、グループ）</li> <li>まとめ方 適切に情報を集め、読み取り、白地図や年表、図表などにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに養ってきた見方・考え方を踏まえ、「生産の仕組み」や「工夫や努力」といった追究の視点が明確な単元において、問いの解決順序を自ら選択して解決を図る場面を導入する。（単元例：食料生産、工業生産）</li> </ul>
第六学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書</li> <li>地図帳や地球儀</li> <li>統計や年表などの基礎的な資料</li> </ul> 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習形態（個人、ペア、グループ）</li> <li>まとめ方 適切に情報を集め、読み取り、白地図や年表、図表などにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に「政治」や「国際理解」の単元において、個別に問いの解決順序を選択する場面を導入する。</li> <li>事象の順序性のある「歴史」の単元においても、時期や時間の経過の見方・考え方を働かせ、学習の見通しを立てる場面に部分的に導入する。</li> </ul>

※学習指導要領「社会的事象等について調べまとめる技能」に基づき作成

※表1に示している内容の限りではない。

## <手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

### ① 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深めるための教師の働きかけの工夫

課題把握から課題追究の各段階において、教師は既習事項や調べたことを使って児童が深く思考するような問いを設定する。社会的事象の特色や相互の関連、意味等を考えるための問いを設定することで、学びのペースを委ねる学習形態においても、児童が自ら社会的事象の見方・考え方を働かせながら追究し、思考を深められるようにした。

### ② 学習過程の各段階において自己の学習を調整する場面の工夫

自己の学習について振り返り、自己の学習を調整するための「学び方振り返りカード」を作成した。本カードを活用することで、課題把握、課題追究、課題解決の各学習過程の段階において、あらかじめ設定した視点に基づき自身の学び方を振り返り、問題解決に向

けた改善を図ることが可能になる。また、本カードを継続的に活用することで、前単元での学びを次の単元の学習の見通しにつなげられるようにした。

各学習過程の段階における振り返りの視点は、以下の2点の理由から中学年と高学年を分けて設定した。

- 児童の発達の段階に応じて、振り返りの視点を具体的で分かりやすく示すため
  - 児童の学習経験に基づき、問題解決の方法を段階的に習得できるようにするため
- 社会科を学び始めた第3・4学年の児童と、経験を積み重ねてきた第5・6学年の児童とでは、自己調整する力にも差があると考えられる。そのため、児童の実態に合わせて資料や学習方法、追究する問いの順序などを自ら選択できる工夫を取り入れた。同時に振り返りの視点を段階的に設定することで、「学び方振り返りカード」の効果的な活用を促し、自己調整を図る場面のさらなる充実を図った。

表2：「学び方振り返りシート」における振り返りの視点

	第3・4学年	第5・6学年
課題把握	資料から、気付いたことや疑問、知りたいことを考えられたか。	資料から、気付いたことや疑問、知りたいことを考えられたか。
	これからどのようなことを調べていくかが分かったか。	これから何を調べていくかを考えられたか。
	これからどのように調べていくかが分かったか。	これからどのように調べていくかを考えられたか。
課題追究	教材を使って、問いを解決することができたか。	自分が選んだ教材で、問いを解決することができたか。
	自分が選んだり、クラスで決めたりした学び方で、問いを解決することができたか。	自分が選んだ学び方で、問いを解決することができたか。
	問いを解決するために、友達と調べたことや考えたことを伝え合うことができたか。	問いを解決するために、友達と話し合い、調べたことや考えたことを確かめ合うことができたか。
課題解決	学習問題を解決するために、友達と話し合うことで、自分の考えを深められたか。	学習問題を解決するために、友達と話し合うことで、自分の考えを深められたか。
	学習問題に対する自分の考えをもてたか。	学習問題に対する自分の考えをもてたか。
	学習問題の解決に向けて、粘り強く取り組めたか。	学習問題の解決に向けて、粘り強く取り組めたか。

※表1「各学年で選択しうる資料・学習方法、問いの順序選択」を基に作成

## V 検証授業

### 1 検証授業① 第5学年

(1) 単元名「水産業のさかんな地域」

(2) 単元の目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、水産業に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に水産業の発展について考えようとする態度を養う。

(3) 単元観

課題追究の段階では、最初の1単位時間で課題追究の仕方を全体で確認し、以後3単位時間程度を児童一人一人が問いを追究したり、児童同士で協働的に学んだりできるようにした。課題解決の段階では、調べてきたことを特性要因図に整理し、水産業に関わる人々の工夫や努力と自分たちとのつながりを意識し、学習問題に対する自分の考えをまとめることができるようにした。生かす段階では、水産業の課題を乗り越えようと進められている日本と世界各国の連携や取組の事例からこれからの水産業の発展について考え、本単元の目標に迫れるようにした。

(4) 研究主題に迫るための手だて

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、問題解決の見通しをもつための工夫

② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

前単元「米づくりのさかんな地域」での学習の進め方の掲示や前単元の児童の振り返りを紹介する。それを基にして、本単元ではどのように進めると自分の学びが深まるか、学習問題の解決につながるのかを考えて学習計画を作成できるようにした。

<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

① 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深めるための教師の働きかけの工夫

課題追究段階で「自分の学習計画」に基づいて追究する際(第4～6時)、水産業に関わる人々の働きを「SKD」(S：水産業の人々の、K：工夫や、D：努力)という視点でその特色や意味を考えさせるようにした。これを用いて児童に問い返しをしたり、児童同士をつないで対話を促したりすることで、社会的事象の見方・考え方を働かせながら問いを追究できるようにした。

(5) 単元の指導計画(10時間扱い)

過程	時	◎ねらい ◆問い ○主な学習活動	□資料 ■見方・考え方 <研究主題に迫るための手だて>
課題把握	1	◎水産物の種類や産地に着目し、日本の水産業について関心をもち、学習問題をつくる。 ◆わたしたちが食べている水産物は、どこでとれるのだろう。 ○日本の主な漁港や養殖が盛んな地域を調べる。 ○水産業について、疑問や調べたいことを出し合い、学習問題をつくる。	□資料 ■見方・考え方 <研究主題に迫るための手だて> □給食献立表、水産加工品の写真 □日本の主な漁港と養殖場の地図 □水産業に関わる人々と私たちの写真 ■地形や気候などの自然条件に着目して、位置や空間的な広がり の見方・考え方を働かせられる

		学習問題：水産業に関わる人たちは、どのような工夫や努力をして魚をとり、わたしたちにとどけているのだろう。	ようにする。 <手だて1-①>
	2	◎学習問題に対する予想を基に、学習計画を立て、追究の見通しをもつ。 ◆学習問題に対する予想をし、学習計画を立てよう。 ○予想を全体で出し合い、分類、整理する。 ○追究内容と追究方法を考え、「自分の学習計画」を立てる。	□前單元「米づくりの盛んな地域」の学習計画づくりの板書 □水産業に関わる人々の写真 ■水産業の人々の取組に着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて1-②・2-②>
課題追究	3	◎魚をとるための漁師の工夫や努力について理解する。 ◆漁師さんは、どんな工夫をしてさんまをとっているのだろう。 ○さんまの採り方を調べ、漁師の工夫や努力を考える。	□さんま漁の様子 □さんま漁師の話 ■生産の工程に着目させ、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて1-②>
	4 5 6	◎漁港でさんまの出荷に関わる人たちの品質を高める工夫について理解する。 ◆漁港で働く人は、どんな工夫をしてさんまを扱っているのだろう。 ○漁港で働く人の仕事や、水産物に含まれる値段について調べ、工夫や努力を考える。	□漁港での水揚げ作業、せり、加工工場の様子 □加工工場の人々の話 ■水産業の人々の取組に着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-②>
	問 い の 順 序 選 択	◎輸送の働きとそれに関わる人たちの工夫や努力について理解する。 ◆さんまを届ける人は、どんな工夫をして運んでいるのだろう。 ○さんまを届ける人の仕事について調べ、工夫や努力を考える。	□根室から主な消費地までの経路と交通手段の地図 □さんまが届くまでの流れ図 □運送会社の人の話 ■輸送、価格や費用に着目させ、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-①>
		◎品質や安全性の高い魚を安定して出荷するための工夫や努力を理解する。 ◆養殖業の人は、どんな工夫をして魚を育て、運んでいるのだろう。 ○ぶり養殖業の人の仕事について調べ、工夫や努力を考える。	□ぶり養殖の様子 □養殖の一日の仕事 □養殖業者の人の話 ■技術の向上に着目させ、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-①②>
課題解決	7	◎水産業に関わる人々の工夫や努力について考える。 ◆水産業に関わる人々は、どんな工夫や努力をしているのだろう。 ○これまで調べてきたことや、考えてきたことを共有し、整理する。	□漁師さんや漁港の人の写真 □養殖業の人の写真 □届ける人の写真 ■水産業に関わる人々の働きを比較・分類したり総合したりする見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-①>
	8	◎水産業に関わる人たちが我が国の食料生産を支えていることについて理解する。 ◆調べてきたことを基に話し合い、学習問題のまとめを考えよう。 ○水産業に関わる人たちの働き、工夫や努力について話し合い、水産業に関わる人々とわたしたちの関わりについて考える。	■生産者の工夫や努力と国民の生活と関連付ける見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-②>

生 か す	9	○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ◎日本の水産業の課題について理解する。  ◆日本の水産業の現状はどんな様子なのだろう。 ○日本の水産業の変化について調べる。 ○漁の制限について調べる。	<input type="checkbox"/> 日本の漁業生産量と水産輸入量の変化 <input type="checkbox"/> 加工工場の人のお話 ■水産業の課題に着目させ、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。
	10	◎これからの水産業について考える。 ◆水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのだろう。 ○水産業をこれからも続けていくためには、どのようなことをしていけばよいのか、消費者と生産者の立場から考え、話し合う。	<input type="checkbox"/> 北太平洋漁業委員会の話し合いの様子(写真) <input type="checkbox"/> 水産資源を守る工夫 <input type="checkbox"/> 海のエコラベルの意識調査 ■生産者の立場と国民の生活と関連付けたりする見方・考え方を働かせられるようにする。

## (6) 成果と課題

### ア 成果

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

#### ② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

教師が児童に「自分の学習計画」を設定したことで、追究内容や追究方法を一人一人が明確にし、問題解決の見通しをもつことができた。また、児童が「自分の学習計画」を立てる際に、追究する問いの順序や時間配分を考えようとしている姿につながった。選択できる余地を教師が意図的に設計し、児童が自ら学習の進め方を判断することで、主体的に取り組むことにつながった\*1。

\*1 「学び方振り返りカード」の児童の振り返り記述(課題把握の段階)

自分の学習計画を立てるとき、3つの問いの中で解決が難しそうな問いと、自分なりに考えて解決できそうな問いがあったので、それを基に解決する問いの順番と時間の配分を決めました。調べる内容にかかる時間やペース配分を意識して、調べていきたいです。

<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

#### ① 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深めるための教師の働きかけの工夫

教師が、課題追究段階でSKD（S：水産業の人々、K：工夫、D：努力）の視点を黒板に明示したり、問い返したりすることで、水産業に関わる人々の働きにはどのような工夫や努力があるかを意識しながら追究する姿が見られた。また課題解決段階で調べたことをまとめる場面では、水産業に関わる人々の共通する工夫や努力や、消費者である自分とのつながりを見だし\*2、学習問題のまとめにつなげることができた\*3。

\*2 児童Aの特性要因図内の記述

水産業に関わる人々の共通する工夫や努力  
・新鮮さを保つこと ・傷つけないこと  
・環境への配慮 ・安心で安全に



\*3 児童Aの学習問題に対するまとめの記述

水産業に関わる人は、魚の新鮮さを保ったり、環境への配慮をしたりして、消費者がおいしい魚を食べ続けられるように工夫や努力をし、私たちに魚を届けている。

### イ 課題

<手だて2-②>を積み重ねていくことで、自己調整できるようになってきたが自己評価の観点や思考の深まりに個人差がある。単元ごとの積み重ねを通して、教師のフィードバックと児童自身の記録を踏まえ、学びの改善につなげていく。

## 2 検証授業② 第6学年

### (1) 単元名「戦国の世から天下統一へ」

(2) 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、戦国の世の統一に果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(3) 単元観

課題追究の段階では、織田信長による南蛮貿易や楽市楽座、豊臣秀吉による検地や刀狩などの業績だけでなく、比叡山焼き討ちや朝鮮出兵などの強権的な一面もあわせて学ぶことで、児童が歴史的な事象の意味や社会への影響を多面的・多角的に考察できるようにする。特に「外国との関わりはどうだったか」「民衆はどのように感じていたか」といった、功績の裏側にある立場や視点にも着目させ、信長や秀吉が戦国時代の社会に与えた影響について幅広く理解できるようにする。また、課題解決の段階では、第6時に織田信長や豊臣秀吉の天下統一への働きについて話し合う活動を取り入れた。調べたことを比較したり、関連付けたりしながら、自分の考えをもち友達と対話する場面を設けることで、単元の目標により深く迫ることができるようにする。

(4) 研究主題に迫るための手だて

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

① 問題意識を醸成し、追究意欲を高めるための社会的な事象との出合いの場面の工夫

課題把握段階で、長篠合戦図屏風からそれぞれの軍の戦い方や武器等を読み取る活動を通して、戦国の世の中の様子について関心を高める。また、当時の戦国大名の勢力図の変化を提示し、時間的な変化や空間的広がりを見方を働かせることで「織田信長や豊臣秀吉は、どのように戦国の世を治めていったのだろうか」という疑問につなげ、学習問題にまとめていけるようにした。

<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

① 社会的な事象の見方・考え方を働かせ思考を深める教師の働きかけの工夫

課題追究段階では、天下統一と関連付けながら、戦国時代の社会に与えた影響について考えられるように、教師から「織田信長や豊臣秀吉がしたことが天下統一とどのようなつながっているか」と問い掛けを行い、調べた社会的な事象とどのような関連があるのかを常に考えるように促した。また、課題解決段階では、織田信長や豊臣秀吉の天下統一への働きについて話し合う活動を取り入れた。調べたことを比較し、関連付けたり、総合したりしながら、自分の考えをもったり、友達と対話したりする場面を設定した。

(5) 単元の指導計画(7時間扱い)

過程	時	◎ねらい ◆問い ○主な学習活動	□資料 ■見方・考え方 <研究主題に迫るための手だて>
課題把握	1	◎戦国の世の戦いの様子について、屏風絵などの資料を読み取り、織田信長などの武将が力を発揮するようになったことを理解する。 ○長篠合戦図屏風を読み取り、気付いたことを話し合う。 ◆長篠の戦いがあった頃、世の中はどのような様子	□長篠合戦図屏風 □鉄砲(火縄銃)の写真 □大名の勢力図 ■勢力の変化に着目し、時期や時間の経過、位置や空間的広がりを見方・考え方を働かせられ

	<p>だったのだろう。</p> <p>○世の中の様子について調べる。</p> <p>◆戦国大名の勢力は、どのように変わっていったのだろう。</p> <p>○戦国大名の勢力図の変化を読み取る。</p> <p>○戦国の世の変化について、疑問や調べたいことを出し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>るようにする。</p> <p>&lt;手だて1-①&gt;</p>
	<p>学習問題：織田信長、豊臣秀吉はどのように戦国の世を治めていったのだろうか。</p>	
	<p>2</p> <p>◎学習問題に対する予想を基に、学習計画を立て、追究の見通しをもつことができる。</p> <p>◆年表を基に、学習問題に対する予想をし、学習計画を立てよう。</p> <p>○学習問題について予想する。</p> <p>○何を調べれば予想したことを確かめられるかを話し合い、これから調べることを考える。</p> <p>○どのように調べ、まとめればよいかを話し合い、調べ方とまとめ方を考える。</p> <p>○自分なりの追究方法について考え、自分の学習計画を立てる。</p>	<p>□肖像画（織田信長、豊臣秀吉）</p> <p>□人物年表</p> <p>■織田信長と豊臣秀吉の取組に着目し、時期や時間的の経過の見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>&lt;手だて1-①②&gt;</p>
課題追究	<p>3</p> <p>◎戦国の世におけるヨーロッパとの関わりについて調べ、ヨーロッパとの関わりが日本の宗教や戦国大名の戦い方などに影響を与えたことを理解する。</p> <p>◆戦国の世では、日本とヨーロッパにはどのような関わりがあったのだろう。</p> <p>○日本とヨーロッパの関わりについて調べる。</p> <p>○日本にどのような影響があったのか考える。</p> <p>○問いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>□肖像画（フランシスコ・ザビエル）</p> <p>□世界とのつながりが分かる図</p> <p>□南蛮貿易の様子</p> <p>□キリスト教徒の増加(グラフ)</p> <p>■世の中の様子やフランシスコ・ザビエルの働きに着目して、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p>
	<p>4</p> <p>◎勢力拡大の様子や楽市楽座などについて調べ、織田信長の天下統一に向けた政策を理解する。</p> <p>◆織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのだろう。</p> <p>○信長の人物像や戦い方、政策について調べる。</p> <p>◆織田信長がしたことは、天下統一とどのようなつながっているのだろう。</p> <p>○信長がしたことと天下統一とのつながりや意味を考える。</p> <p>○問いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>□肖像画（織田信長）</p> <p>□信長の年表</p> <p>□信長の勢力図の変化</p> <p>□安土城(絵図)</p> <p>□楽市楽座の様子(想像図)</p> <p>■織田信長の働きに着目して、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p>
	<p>5</p> <p>◎検地や刀狩などについて調べ、豊臣秀吉の天下統一について理解する。</p> <p>◆豊臣秀吉は、天下統一を進めるために、どのようなことを行ったのだろう。</p> <p>○秀吉の人物像や戦い方、政策について調べる。</p> <p>◆豊臣秀吉がしたことは、天下統一とどのようなつながっているのだろう。</p> <p>○秀吉がしたことと天下統一とのつながりや意味を考える。</p> <p>○問いに対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>□肖像画（豊臣秀吉）</p> <p>□秀吉の年表</p> <p>□検地の様子(想像図)</p> <p>□刀狩令条文</p> <p>■豊臣秀吉の働きに着目し、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>&lt;手だて2-①②&gt;</p>
課題解決	<p>6</p> <p>◎織田信長や豊臣秀吉の天下統一への働きについて話し合う活動を通して、戦国の世が統一されていったことへの理解を深める。</p> <p>◆信長や秀吉の働きが天下統一とどのようなつながっているのだろう。</p> <p>○全体で話し合う。</p> <p>○自分の考えをまとめる。</p>	<p>□肖像画（織田信長、豊臣秀吉）</p> <p>■織田信長と豊臣秀吉の業績を多面的に比較したり、世の中の様子とを関連付けたりする考え方を働かせられるようにする。</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p>

7	◎天下統一を進めた二人の武将の取組について、これまで学習してきた内容を整理し、自分の考えを表現する活動を通して、戦国の世が統一されていたことを理解する。 ◆学習問題に対するまとめを考えよう。	■織田信長と豊臣秀吉の業績を関連付けたり、総合したりする見方・考え方を働かせられるようにする。 <手だて2-②>
---	--	---

(6) 成果と課題

ア 成果

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

① 問題意識を醸成し、追究意欲を高めるための社会的事象の出合いの場面の工夫

長篠合戦図だけでなく、戦国大名の勢力図を提示し、時間的な変化と空間的な広がりに着目させた資料を提示したことで、「どのように織田信長や豊臣秀吉が全国を治めていったのか」という疑問をもつことにつながり、追究意欲を高めることができた。

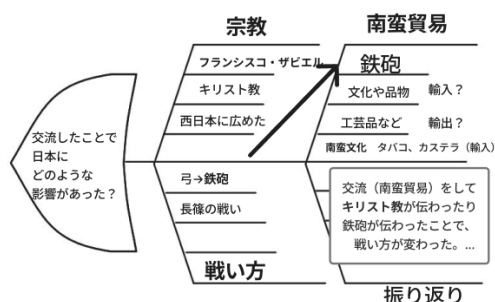
<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

① 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深める教師の働きかけの工夫

課題追究段階で、「織田信長や豊臣秀吉の働きが天下統一とどのようにつながっているか」考える学習活動を設定した。これにより、調べたことを思考ツールに整理し、それぞれの業績と天下統一と関連付けながら考える姿が見られた。また、第6時で設定した「信長や秀吉の働きが天下統一とどのようにつながっているのだろう。」について話し合う場面では、それぞれの業績と天下統一とのつながりを根拠に、当時の社会に与えた影響について、自分の言葉で表現している記述があり、児童の学びの深まり\*4を見取ることができた。

\*4 児童のポートフォリオの記述より

天下統一に大きな影響を与えたのは、信長が60%、秀吉が40%で信長だと思う。南蛮貿易や商業都市を支配したことで、豊富な資金を生み出し、それにより大量の武器をそろえられるようになって武力が増したと考えたから。秀吉は、刀狩や検地によって身分を区別したことが、天下統一につながっていると思う。



イ 課題

<手だて2-①>の「学び方振り返りカード」や学びを記録するポートフォリオにおける、自己評価の記載内容や思考の深まりを分析すると個人差が大きい。個人で調べまとめること、考えたことを文章に表現することが難しい児童にとっては、まだまだ教師の支援が必要である。児童が主体的に問題を解決できるように、より追究する問いを精選するとともに、ポートフォリオの形式等のまとめ方についても児童一人一人の実態に応じて作成していく必要がある。

3 検証授業③ 第5学年

(1) 単元名「自動車の生産にはげむ人々」

(2) 単元の目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々

は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

### (3) 単元観

課題追究段階の全6時間中の第3時では、クラス全体で自動車の生産工程を調べることで、生産に込められた様々な工夫や努力を捉えられるようにする。学習したことを踏まえ、その後の追究においても、児童が課題追究の仕方や生産に関わる多くの人々の工夫に着目できるようにした。児童一人一人が自分で選択した問いの順序のもとに、調べたり、児童同士で協働的に学んだりできるようにした。課題解決の段階では、調べてきたことをクラゲチャートに整理することで、自動車の生産における工場相互の協力関係やその努力や工夫を多角的に捉え、学習問題に対する自分の考えをまとめることができるようにした。

また、教師の発問により「消費者の需要」や「社会の変化」に合わせて自動車工業が発展し国民生活が向上してきたことに着目させることで、今後の自動車生産と、工業全体の発展に見られる課題の解決に向けて考え、単元の目標に迫れるようにした。

### (4) 研究主題に迫るための手だて

<手だて1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

#### ② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

課題把握の段階で、学習問題に対する個人の予想を学級全体で分類、整理し、問いの形にまとめる。その際に、学習問題の解決につながる問いかどうかを児童が吟味できるように、「その問いで、どのようなことが解決できそうか」という発問を行う。また、追究する問いの順序については、順序選択の理由を記述し、児童同士で交流させる。自分と同じ進め方の児童がいることを知ることで、情報交換しやすくなり、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った。

<手だて2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

#### ② 学習過程の各段階において自己の学習を調整する場面の工夫

振り返りの視点を学習過程の段階ごとに以下のように設定することで、自己の学習を調整しながら、学習を進められるようにする。

- ・課題把握段階：「どのようなことに気付いたか」「予想や調べたいことが書けたか」
- ・課題追究段階：「予想を基に資料でどの程度調べられたか」  
「追究する問いについて自分の考えがもてたのか」  
「友達と考えを交流し、新たな考えや気付きはあったか」
- ・課題解決段階：「調べたことをどのように整理できたか」  
「今まで調べたことをどのようにつなげて考えられたか」 など

### (5) 単元の指導計画(9時間扱い)

過程	時	◎ねらい ◆問い ○主な学習活動	□資料 ■見方・考え方 <研究主題に迫るための手だて>
	1	◎昔と今の自動車の生産方法や生産台数、車体のデザインや性能などの変化に着目して、今の自動車産業の様子についての学習問題をつくる。	□価格の見積りシミュレーション □1930年代の国産車(写真) □1930年代の自動車工場(写真) □2020年代の国産車(写真)

課題把握		<p>○価格の見積りシミュレーションを行う。</p> <p>○昔と今の自動車の生産方法の違いを見付ける。</p> <p>○生産台数などの資料を読み取ることで、短い時間で多くの自動車が生産されていることをつかむ。</p> <p>◆多くの自動車をどのように作っているのだろう。</p> <p>○自動車の生産について、疑問や調べたいことを出し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>□2020年代の自動車工場（写真）</p> <p>□自動車の生産台数</p> <p>■生産の方法の変化に着目して、時期や時間の経過、位置や空間的な広がりを見方・考え方を働かせられるようにする。</p> <p>□組み立て工場の地図</p> <p>&lt;手だて1-①&gt;</p>
	<p>学習問題：自動車を生産する人々は、どのようにして消費者のニーズに応え、大量の自動車を生産し、販売店に届けているのだろう。</p>		
2 本 時		<p>◎学習問題に対する予想を基に問いをつくり、学習計画を立て、追究の見通しをもつ。</p> <p>◆学習問題に対する予想をし、学習計画をたてよう。</p> <p>○予想を全体で出し合い、分類・整理する。</p> <p>○分類した予想をまとめて、問いをつくる。</p> <p>○追究する順番を決め、その理由を書く。</p> <p>○追究する順番を友達と交流した後、自分の学習計画を完成させる。</p>	<p>□学習問題に対する予想</p> <p>■関連工場・組み立て工場・輸送方法に着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p>
課題追究	3	<p>◎人とロボットの分業のもとで行われる自動車の生産工程に着目して、生産中での様々な工夫や努力、想いを捉える。</p> <p>◆自動車はどのように生産されているのだろう。</p> <p>○資料を基に自動車の生産方法を読み取る。</p> <p>○人とロボットが分業している理由を考える。</p>	<p>□自動車工場の生産工程、工場働く人の話</p> <p>□自動車生産の様子</p> <p>&lt;手だて1-①&gt;</p> <p>■ロボットと人に着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p>
	4 5 6	<p>◎自動車組み立てラインの具体的な作業に着目して、大量生産を支える、効率のよい生産の工夫や努力を捉える。</p> <p>◆組み立て工場の人たちは、どのような工夫をして自動車をつくっているのだろう。</p> <p>○資料を基に、組み立て工場の工夫を読み取る。</p> <p>○工夫するのは、何のためかを考える。</p>	<p>□自動車工場の生産工程、工場働く人の話</p> <p>□自動車生産の様子</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p> <p>■工夫や努力、環境を整える取組について着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。</p>
	問 い の 順 序 選 択	<p>◎部品の調達の流れや部品生産の工夫・努力に着目して、自動車工場を支える関連工場の役割を捉える。</p> <p>◆組み立て工場の人たちは、関連工場の人たちとどのように協力しているのだろう。</p> <p>○資料を基に、関連工場の部品生産の工夫や組み立て工場との関わりについて調べる。</p> <p>○組み立て工場と関連工場が協力する良さについて考える。</p>	<p>□専用の部品をつくる人の話</p> <p>□自動車工場と関連工場のつながり</p> <p>□部品を作っている様子（映像）</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p> <p>■組み立て工場と関連工場が協力・分業していることに着目して、事象や人々の相互関係の見方を働かせられるようにする。</p>
		<p>◎自動車が工場から販売店に届くまでの流れに着目して、出荷に関わる人たちの工夫や努力、工場の立地と輸送との関係を捉える。</p> <p>◆完成した自動車を運ぶ人たちは、どのような工夫をして自動車を運んでいるのだろう。</p> <p>○資料を基に、輸送の仕方や出荷に関わる人々の工夫について調べる。</p> <p>○輸送手段を分けている理由について考える。</p>	<p>□販売店に運ばれるまでの流れ</p> <p>□自動車が販売店まで届けられる様子（映像）</p> <p>&lt;手だて2-①&gt;</p> <p>■完成した自動車の輸送方法に着目して、位置や空間的な広がりを見方・考え方を働かせられるようにする。</p>
	7 8	<p>◎新しい自動車や機能の開発の様子に着目して、自動車を生産する会社では、どのようにして消費者のニーズを反映した製品を開発</p>	<p>□研究開発の取組み</p> <p>□新しい機能の開発（映像）</p> <p>&lt;手だて2-①②&gt;</p>

		しているのか考える。 <b>◆</b> 自動車を開発する人たちは、新たな機能を取り入れた自動車をつくるために、どのようなことを考えて開発しているのだろう。 ○資料を基に、新たな機能をもった自動車の開発の仕方について調べる。 ○新しい自動車は、どのようなことを目指して開発されているのかを考える。	<b>■</b> 新しい機能を取り入れた自動車をつくろうとする人たちの働きに着目して、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。
課題解決	9	◎これまでの学習を整理して、自動車の生産に関わる人々の働き、消費者のニーズや社会の動向に対応する工夫や努力について理解し、日本の自動車生産の特色について考える。 <b>◆</b> 自動車を生産する人々は、どのようにして消費者の多様なニーズに応え、大量に生産し、販売店に届けているのだろう。 ○ワークシートに自動車の性能を上げ大量に生産する工夫や仕組みを書く。 ○日本の自動車生産を表すキャッチコピーとその理由を考え児童同士で交流する。	<input type="checkbox"/> 前時までに使用した資料 <手だて 2-①②> <b>■</b> 生産者の工夫や努力と自動車工業の発展に着目し、事象や人々の相互関係の見方・考え方を働かせられるようにする。

(6) 成果と課題

ア 成果

<手だて 1> 児童が自ら問いを見だし、解決の見通しをもつための工夫

② 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

学習問題の解決に向けて、児童の予想を分類・整理し、教師とともに調べる内容を追究する問いの形で学習計画に位置付けていくことで、具体的に解決する内容が明確になり、解決の見通しをもちながら学習を進める児童の姿<sup>\*5</sup>が数多く見られた。

\*5 「学び方振り返りカード」の児童の記述（課題把握段階）

自動車生産の細かい部分から知ることによって学習問題の解決に近づけると思うから、部品→組み立て→輸送の順番で調べていきたいです。

生産された自動車がどのようにして販売店に運ばれるのが1番気になるので、販売店→組み立て工場→関連工場の順番で調べたいです。

また、アンケート調査の「社会科の調べる時間の進め方や調べ方は、どのように決めるようにしていますか」の設問において、実践前では「インターネットを使う」「一人で調べる」などと回答する児童の割合が多かったが、実践後では、「調べる内容によって教科書やインターネットを使い分けた」「一人で悩む課題があったら、友達と相談して考えた」などの回答が見られた。「学び方振り返りカード」の「本単元での自分の学び方はどうだったか」の視点からの記述<sup>\*6</sup>においても、児童が自分の学習計画を基に学び方を調整していったことが読み取れ、学習問題の解決に向け、資料や学び方を自ら選択し、試行錯誤しながら自己の学習を調整する姿が見られた。

\*6 「学び方振り返りカード」の児童の記述（単元終了の段階）

自分の学習計画では「関連工場→組み立て工場→輸送方法」の順番で調べることになりました。今までは調べる方法は、教科書が中心だったけど、友達がインターネットで動画を見ているのを見て、分かりやすそうだと思い、僕もインターネットを使って調べることが増えました。特に自動車の組み立て方法については、動画の方が分かりやすかったです。また、分からないことがあった時には、友達に意見を聞くと、解決することが多かったです。

<手だて 2> 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

② 学習過程の各段階において自己の学習を調整する場面の工夫

アンケート調査の「社会科の学習で、自分の学び方を振り返り、次の学習に生かしていますか」の項目では、実践前後の肯定的な回答の割合を見ると約 80%から約 90%に上昇し

た。学習過程の各段階において「学び方振り返りカード」を活用し、学び方等を振り返る機会を意図的に設けることで、自己の学習を調整しようとする意識が向上し、主体的に学習に取り組もうとする態度の育成につながったと考えられる。

#### イ 課題

<手だて2-②>において、「学び方振り返りカード」を自己の学習を調整できている児童とそうでない児童の差が大きいという課題があった。アンケート項目「社会科の学習で、自分の学び方を振り返り、次の学習に生かしていますか」では、実践後も否定的な回答をした児童が約10%いた。今後も児童の学び方の変容を丁寧に見取っていくとともに、「学び方振り返りカード」の視点を、より児童の実態に合った形へと改善を図っていききたい。

## VI 研究の成果と課題

### 1 児童が自ら問いを見だし、問題解決の見通しをもつための工夫

#### (1) 問題意識を醸成し、追究意欲を高めるための社会的事象との出会いの場面の工夫

##### ア 成果

- 前単元や前学年との比較を促す資料提示や、社会的事象の見方・考え方（位置や空間的広がり、時期や時間の経過、事象相互の関係）に着目させる工夫を行うことで、児童の問題意識を強く喚起し、追究意欲を高めることができた。
- 第5学年「自動車工業」では、「昔と今の作り方の違いに気付いた。今は短時間で大量生産しているが、どのように行っているのか調べたい」といった、事実の差異に着目した記述が見られた。また、第6学年「天下統一」では、勢力図の比較から「なぜ豊臣秀吉はこれほど短期間で天下統一できたのか早く調べたい」など、歴史的事象の変化の要因を追究しようとする姿が確認できた。
- これらにより、社会的事象の見方・考え方を働かせ、自律的に問題解決に取り組もうとする「主体的に学習に取り組む態度」が培われた。

##### イ 課題

- 資料から社会的事象の意味や特色を読み取ることが苦手な児童や、既習事項との関連付けが難しい児童への手だてが十分ではなかった。今後は、児童一人一人の実態に応じた資料提示の工夫に加え、既習事項を想起させ、新たな問いへとつなげるための「発問の精選」が必要である。

#### (2) 解決の見通しをもつための学習計画づくりの工夫（追究する問いの順序選択等）

##### ア 成果

- 学習計画の中に、調べる内容を「問いの形」で位置付け、問いの順序や学び方を自己選択できるようにした。その結果、児童が目的意識をもって解決過程を構想し、見通しをもって学習に取り組む姿が多く見られるようになった。
- 事後調査においても「調べる計画を自分で考えて立てている」という肯定的回答が69.4%から73.1%へ増加した。具体的な児童の姿として、「解決が難しそうな問いと自分なりに解決できそうな問いがあったので、解く順番と時間配分を決めた」、「部品、組み立て、輸送の順に調べることで解決に近づけると思う」といった記述が見られ、目的に応じ

て最適な方法や順序を自ら判断しようとする姿が確認できた。

#### イ 課題

- 学習問題と学習計画上の問いとの関連を考慮して計画を立てる児童がいる一方で、計画づくり自体に困難さを感じる児童も存在した。全ての児童が具体的な見通しをもてるよう、問いの構造化を一層推進する必要がある。
- 交流が単なる感想の伝え合いに終わったり、逆に交流が減少して思考が深まらなかったりする場面も見られた。「個別最適な学び」による個の思考を確保しつつ、他者との対話が深まりを生む「協働的な学び」を充実させ、学び方を選択する「必然性」を児童が判断できるような支援が求められる。

## 2 児童が自己の学習を調整し、学びを深めていくための工夫

### (1) 社会的事象の見方・考え方を働かせ思考を深めるための教師の働きかけの工夫

#### ア 成果

- 学習計画に位置付けた問いに加え、社会的事象の特色や相互の関連、意味等を考えるための問いを設定し、「問い返し」を行った。これにより、調べた事実を比較・分類したり総合したりすることで知識が構造化され、より確かな理解へとつながった。
- 具体的な児童の姿として、「ただ協力しているのではなく、消費者にいち早く届けるために協力していることが分かった」という記述が見られた。これは教師の意図的な問いかけによって、社会的事象の特色や相互の関連について考えを深めた成果である。

#### イ 課題

- 追究段階において、見方・考え方（位置や空間的広がり、時期や時間の経過、相互依存関係など）を働かせて多角的に考察し、自分の考えを再構成する場面の設計が不十分であった。他者との対話を通して自らの考えを吟味・修正し、思考を深められるよう、意図的な対話の場の設計と、適切な「問い返し」について継続して研究していく必要である。

### (2) 学習過程の各段階において自己の学習を調整する場面の工夫

#### ア 成果

- 「学び方振り返りカード」を活用し、学習過程の各段階で振り返りの場面を設けた。これにより、自らの学びを客観的に捉え、次時の学習を改善しようとする「自己調整」の姿が見られるようになった。
- 第6学年では「あきらめずに学習している」という回答の割合が約8ポイント上昇(86%)した。具体的な児童の記述として、「学びが深まらないと気付いたので、まずは一人で学び、その後に友達と対話するように学び方を変えた」「一人で考える時間と交流のバランスを考えたい」とあり、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」につながった。

#### イ 課題

- 社会科の学習を通じた「学び方」の習得には個人差があるため、今後は単元をまたいだ継続的な記録の活用を促し、児童が自らの学びの変容を自覚できるようにしたい。それにより、児童一人一人が自己の学習を調整しながら粘り強く取り組むことを通して、主体的に学習に取り組む態度の更なる育成を図っていくことが、今後の大きな課題である。

## 令和7年度 教育研究員名簿

### 小学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
中央区立日本橋小学校	主任教諭	古 俣 和 也
新宿区立四谷小学校	主任教諭	島 谷 直 樹
文京区立柳町小学校	主任教諭	内 藤 俊 介
世田谷区立代沢小学校	主任教諭	山 本 剛 己
葛飾区立金町小学校	主幹教諭	◎本 宮 雅 俊
葛飾区立中之台小学校	主任教諭	○安 倍 啓一郎
三鷹市立第二小学校	主任教諭	酒 井 まりか
町田市立鶴川第二小学校	主任教諭	丹 羽 励
小平市立小平第十四小学校	主任教諭	吉 岡 大 輔
西東京市立上向台小学校	主任教諭	花 俣 博 己

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕東京都指導部義務教育指導課

指導主事 宮本 俊宏

令和7年度  
教育研究員研究報告書  
小学校・社会

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6869